

気になる脂肪は、 医療の希望でもある。

脂肪細胞から、
再生医療に貢献する
夢の細胞を開発。

病気や事故で失われた組織や臓器を人工的に作り出し、機能の回復をめざす再生医療。その発展のカギを握るのが、さまざまな細胞に分化する“多能性”をもつ細胞です。日本大学生物資源科学部の加野浩一郎教授と医学部の松本太郎教授は独自の発想により、「DFAT (ディーファット：脱分化脂肪細胞)」という多能性細胞の作製に成功しました。DFATは入手が容易なヒトの脂肪細胞を材料とし、皮膚や骨、筋肉、血管など多様な細胞に分化可能。しかも、簡単かつ大量に作れるという特徴も備えています。日本大学では現在、生物資源科学部や医学部、歯学部、生産工学部などの連携による全学的プロジェクトとしてDFAT研究を推進。医療、獣医療、創薬など幅広い分野での実用化に大きな期待が寄せられています。

DFATに関する情報をWebでご紹介! ▶▶▶ <http://www.med.nihon-u.ac.jp/department/saisei/dfat.html>



法学部/文学部/経済学部/商学部/芸術学部/国際関係学部
理工学部/生産工学部/工学部/医学部/歯学部/松戸歯学部
生物資源科学部/薬学部/通信教育部/短期大学部

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24

日本大学広報部広報企画課 TEL.03-5275-9284

詳しくはWEBサイトへ <http://www.nihon-u.ac.jp>